

## 卒業論文 情報行動とメディア・リテラシーの相関性

早稲田大学政治経済学部国際政治経済学科  
映像ジャーナリズム・高橋恭子ゼミナール  
4年毛利裕一

### 概要

「メディア・リテラシー」は1990年代に登場した言葉・概念であるが、近年の情報社会において重要性を増している。現代社会では、コンピュータによる迅速な情報処理と、多様な通信メディアによる広範な情報伝達によって、大量の情報が不断に生産、蓄積、伝播されている。このような環境において、人々は日々情報を取捨選択しなければならない。情報を取捨選択する中で翻弄されることがないように、メディア・リテラシーの重要性は様々な場所で語られてきた。

しかし、メディア・リテラシーは各国で定義が異なっていたり、教育環境によって用いられ方が多様であったりする。大学の授業でコンピュータ操作を学ぶクラスに「メディア・リテラシー」の名が冠せられるという状況もみられる。また、メディア・リテラシーの研究では、メディア・リテラシーの枠組みやそれを修得するための議論が重ねられてきたものの、メディア・リテラシーのレベル測定や教育効果を測定する試み、あるいはメディア・リテラシーの規定要因の検討といった実証的研究は不足している。

本研究においては、メディア・リテラシーを再定義した上で、その測定を試みた。さらには、測定結果と情報行動（テレビや新聞、インターネットメディア、SNSなど、情報メディアの利用時間）との相関性について検証した。